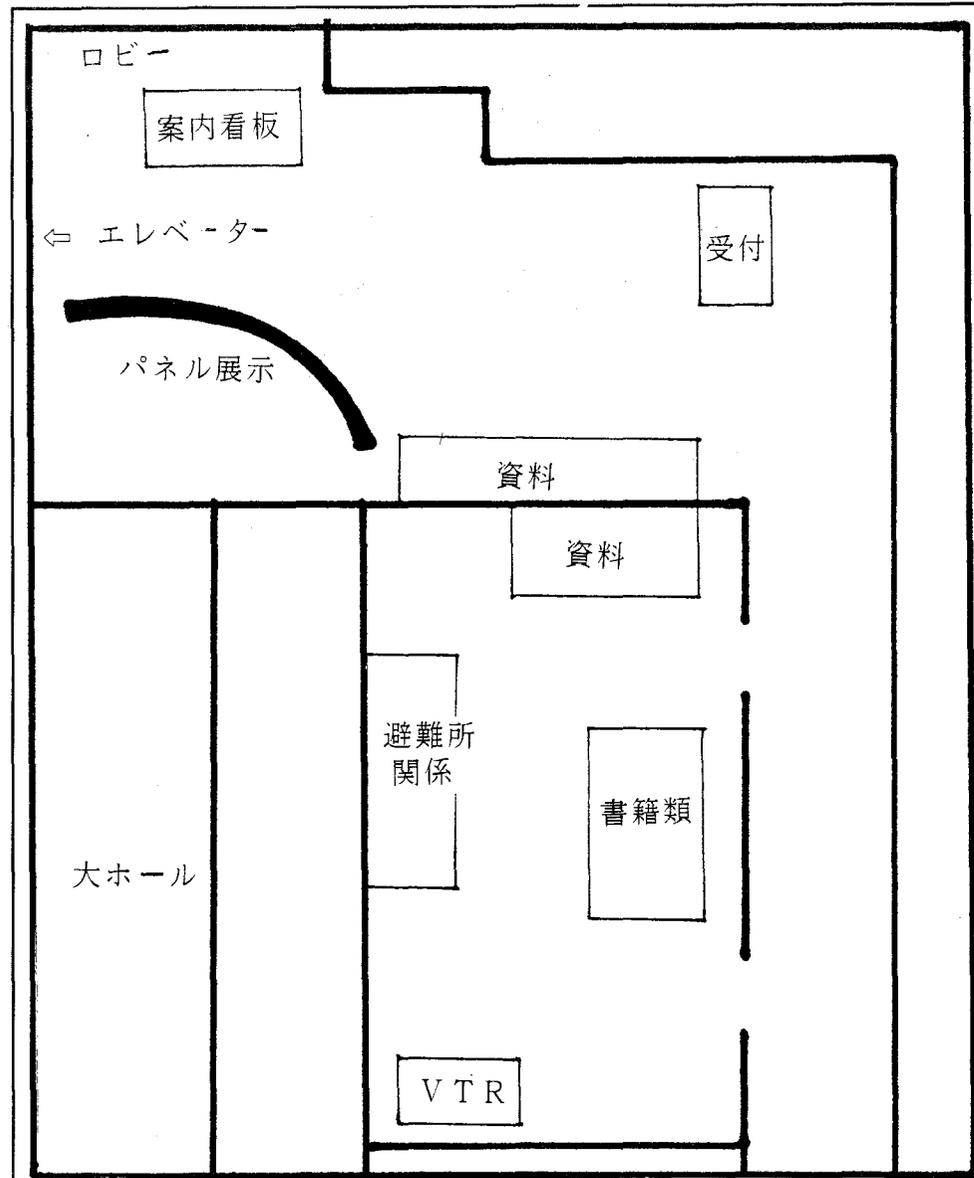






第3回震災資料室展

△会場レイアウト



当日、会場に、みなさまのご感想等を書いていただけるように、用紙をおいています。ぜひ、いろいろな声を聞かせてください。前回来場された方の感想を一部ご紹介いたします。

「被災者でありながら、当時の被災実態がテレビ、新聞等も知らず一部しか見ていないこともあり、当展示会はよい企画であったと思います。」

「人は苦しみや悲しみを忘れなければ生きていくのが辛い。決して忘れてはいけない苦しみや悲しみを震災の資料として大切に保存し、後世に伝え、二度と繰り返さないように祈ります。」

「今の時点に至って、資料を残すことの大切さを思い知らされています。安否確認、物資配布、支援等で走りまわった頃の記録資料が散逸してしまっています。今からでも集めなおしたいという気になりました。」

震災資料室では  
みなさまからの  
資料の提供を  
お待ちしております

文集「ほほえみ」

この文集は、阪神大震災で亡くなった有明結香さんを偲び、1週忌に手話サークル「神戸CSC」が中心となり、生前親しかった人たちの寄稿文・手話活動の記録をまとめたものです。

「…震災から3年が過ぎ、風化という言葉が頭に思い浮かびます。私たちには忘れてはいけないことがたくさんあります。その一つが、震災で亡くなった人たちのことです。たった十数秒の揺れで消えてしまった六千余人もの生命。その人たちの分まで一生懸命に生きなければならぬと思っています。」

新聞で、震災に関する資料を集めていることを知りました。大きな意味のあるお仕事だと思えます。大変とは思いますが、頑張ってください。

吉川景子

寄贈資料の紹介

「福祉における危機管理」  
阪神・淡路大震災に学ぶ  
編者 高澤 武司・加藤 彰彦

「私たちがここ数年にわたり、自主的に学習と研究を重ねてきたことを、この度、(株)有斐閣のご理解を得て本にまとめることができました。この本の内容は、阪神・淡路大震災という大きな教訓を私たちなりにどうとらえるかということで、清水様を始め多くの皆様の貴重なお話や資料から示させていただいたものです。…社会福祉の転換期にあり、頂戴したご意見は研究会として真摯に受け止めたいと考えておりますので、その旨ご理解下さいますようお願い申し上げます。」

平成十年三月

福祉における危機管理研究会

代表 高澤 武司